

巻 頭 言

九州農業食料工学会
会長 田中史彦
(九州大学大学院農学研究院)

九州農業食料工学会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年度、九州農業食料工学会は創立 70 周年を迎えました。本来ですと盛大な祝賀行事等を開催すべきところですが、新型コロナウイルスの感染が全国に拡大しており、まずは記念号の刊行を企画したところです。第 70 号は学会創立 70 周年記念号とし、学会の歴史を振り返る「学会創立 70 周年を記念して—学会 70 年のあゆみ—」や、歴代支部長および新たに導入した副会長制でご就任いただきました副会長からのご寄稿、管内の研究機関紹介ほかを掲載しております。本号を刊行するに当り、歴代支部長ならびに各会員の皆様に多大なご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、九州農業食料工学会ですが、昭和 25 年に農業機械学会九州支部として発足し、黎明期、発展期、変革期を経て現在に至っております。この間、本学会は一貫して九州における農業の機械化、近年では、食料・食品工学分野や IT・メカトロニクス分野、バイオマス分野の発展に寄与しています。内閣府が定義するところの Society 2.0（農耕社会）から Society 3.0（工業社会）への変革を支え、労働力を都市に送り出したのも農業の機械化によるところが大きく、その後の Society 4.0（情報社会）ではこれに対応し、Society 5.0（サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会）では農業生産・流通のスマート化を牽引するトップランナーとしての役割が求められています。農業やこれに関連する産業従事者人口の減少と高齢化は深刻な問題で、まずはスマート農業の実現とこれに続くスマートフードチェーンの構築がこの 10 年の課題ではないかと感じています。内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）事業も 2 期目に入り、出口側としてスマートフードシステムの構築を目指す取り組みや、農水省が先導するスマート農業化事業などが展開していますが、これらが確実に社会基盤を形成し、機能していくことが我が国の持続的発展を可能にするものと思われまます。また、これと合わせてグローバルな視野からの持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みも欠かせません。そのためには、学会自身の自己改革は当然のことながら、さらには、新たな分野からの研究者・技術者の参入や異分野との交流・連携も望まれるところです。多様性は新たな創造を生み、さらなる発展のチャンスを与えてくれます。高度な技術を持ち農業技術体系全体を俯瞰できる専門家集団である九州農業食料工学会の強みを活かし、引き続き社会基盤を強靱に支え、常に新たな技術や学問体系、価値観を創生して行けるような学会であり続けたいと考えています。

道に迷ったら、たちどまって道を知っている人に尋ねるのが一番です。先人たちが歩いて来られた道を辿り功績を讃えるとともに、本号が今後の道しるべになればと存じます。